

令和元年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取湖陵高等学校

学校長 濱 崎 公 嗣

評 価 日	令和 2 年 2 月 1 7 日 (月)	
	評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等
	<p>1. 今年度の自己評価について</p> <p>(1) 重点目標の達成状況</p> <p>○地域の産業を担う専門人材育成・ICT 活用の推進</p> <p>・湖陵フェスタに鳥取大学生とともに参加。「湖陵生の研究発表のレベルの高さに驚いた。」「課題研究は普通科には無かった。とても良い取組だ。」と大学生が驚いていた。また、「先生と生徒の距離が近く良い環境。」「総合選択制で他の学科について学ぶ経験は重要。」と学び方の良さを感じていた。このような取組を大切にして、引き続き深めてほしい。</p> <p>○協同学習の理念を基盤にアクティブな学び方の推進</p> <p>・評価「C」を改善したい。学力が伸びる方策として、「教える」機会を工夫してほしい。</p> <p>○地域・産業界との連携推進</p> <p>・保育実習やアニメーション作品披露などで園児は大喜びしている。苦勞の多い実習だったが、「この経験を次に活かしたい。」「必ず保育士になりたい。」など前向きな感想ばかりで姿勢が積極的である。地域の資源を上手に活用されている。今後も協力させていただきたい。</p> <p>・保護者として感じることは、湖陵ならではのカリキュラムや地域との関わりで、社会性・自主性を育てていただいた。また、このような会議でより良い環境や体制を作っていただいております、感謝している。</p> <p>○規範意識の確立・生徒の心情理解</p> <p>・アンケート「身だしなみが整っている」に対する肯定的回答について、生徒 92%と保護者 67%のギャップの理由は何か？生徒会自治で「校則を守ろう」と生徒同士が自覚して取り組めるようになりたい。</p> <p>・生徒自治の取組を成功させるためには、多くの時間と労力が必要。以前に比べると身だしなみは落ち着いており、鳥取湖陵生としての誇りを持つなど、徐々に良くなっている。</p> <p>○働きやすい職場づくり ○保護者・地域との連携推進</p> <p>・時間外勤務平均 15.7 時間に大変驚いている。部活動全員加入の中学校では時間外勤務縮小があまり進まない。部員数が少なくても部を存続してほしいという保護者の強い要望で、廃部もできない。水泳・陸上の大会参加について見直したが、各立場での意見が大きく異なり、苦勞が多い。</p> <p>・地域では小学校・地域のコーディネーター2 人体制で、外部指導員などの人材バンクや地域ボランティア支援について予算を含めて検討している。このような取組をすすめて、学校を支援できればと思う。</p> <p>(2) 説明・公表について</p> <p>とくになし。</p>	<p>学校の所見・改善策等</p> <p>・総合選択制の良さをさらに深め、学科を超えた協同などで本校の魅力化をすすめたい。</p> <p>・専門教科と共通教科の連携授業など独自事業での取組も含め、様々な方法で学びを深めていく予定。</p> <p>・保育実習のおかげで生徒が成長でき、感謝している。</p> <p>・現在、生徒会執行部の活動は活発であり、小さい事柄からでも取り組んでいきたい。</p> <p>・部活動について県の方針「土日のいずれかが休養日」を実行し、時間外勤務の削減となった。勝利至上主義に偏ることなく、部活動の教育的意義を十分理解して引き続き取り組むが、社会体育の充実も必要である。</p>

2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について

- ・生徒募集について、中学生は「とりあえず普通科」の志向が強い。こりよっぴ通信を各中学校へ配布するなど、専門高校への意識付けの取組をしてはどうか。

3. 取組改善のための提言

- ・生徒の力（学力・専門性）を高めるために、これまでも多くの教員研修を積んできた。新しい時代を支える地域人材の育成に向けて、学力面も含めた取組を引き続きすすめてほしい。

- ・独自事業では、園芸交流・プログラミング交流などを小中学校と実施している。このような体験を通して専門高校への理解をさらに深めていきたい。